

ゼミに対する学生の「集中力」「持続力」をアップ

〔慶應義塾大学 環境情報学部〕

CASE Study

Vol. 02

講義資料に書き込めて、さらに学生にも“書かせる”を実現。デジタルペンを用いた新たな教育ICTツール「OpenSTAGE」。実際に授業でご活用されている先生にお話を伺いました。

◆この先生にお話を伺いました！



慶應義塾大学
環境情報学部
教授
熊坂 賢次氏
(くまさか けんじ)

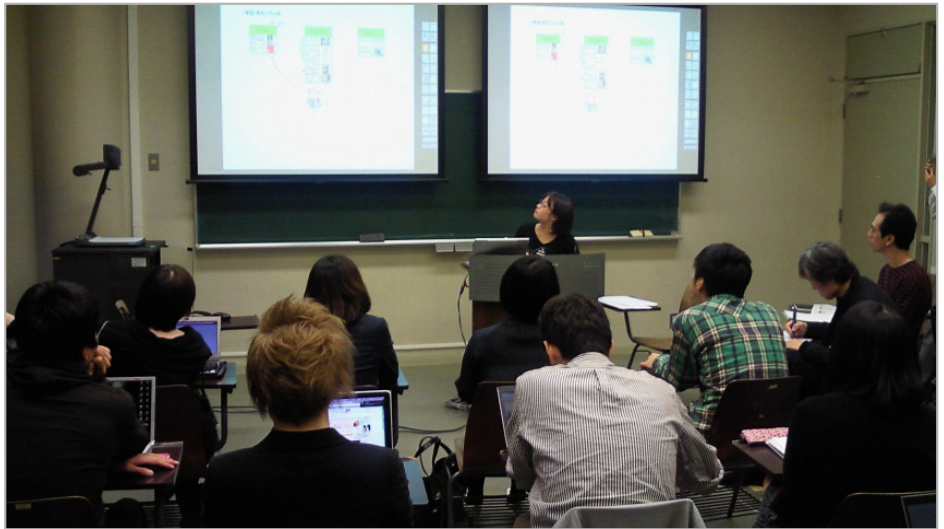


図1: 熊坂先生のゼミ風景

■用途

学生が自分の研究内容を、既設のスクリーンに映して発表します(図1)。

その発表内容に対して熊坂先生、及び研究会メンバーが、質問・指摘し議論し合い、内容をブラッシュアップしていくゼミでOpenSTAGEを使いました。

＜デジタルペン使用者＞

- 発表担当の学生・・・1本
- 熊坂先生・・・1本
- 質問担当の学生・・・2本

■使用方法

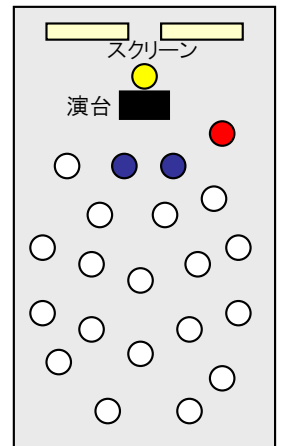
発表担当の学生は、教室の前の演台にパソコンと資料を置いてデジタルペンを使って発表。



デジタルペンで資料に書き込み説明する発表担当の学生



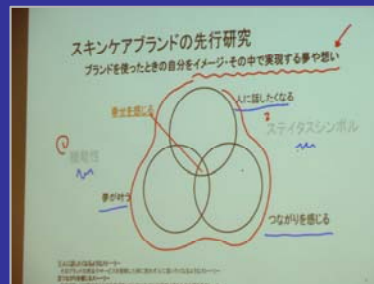
図2: デジタルペンを使ってコメント指摘を行う熊坂先生



学生側に座った熊坂先生と質問担当の学生にも発表者と同じ資料を渡し、デジタルペンを使って自席からコメント指摘・質問記入を行いました(図2)。

活用ポイント☆

記入表示される色を、発表担当の学生は「赤」、熊坂先生と質問担当の学生は「青」に設定。発表側と質問側のどちらが書いたかが分かるようにしました。



(左): コントロールパネルを使い、デジタルペンの記入表示される色を変更

(右): 「赤」の線は発表担当の学生、「青」の線は熊坂先生および質問担当の学生が記入

■熊坂先生の感想

一番の効果は、学生にデジタルペンを渡し、質問などを「書かせる」という状況を作ることで、学生のゼミに対する集中力が増し、持続させることができる点だと思います。

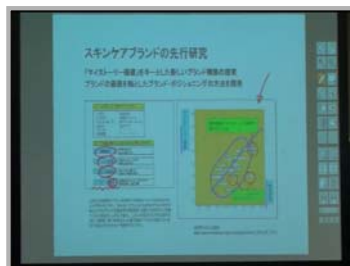
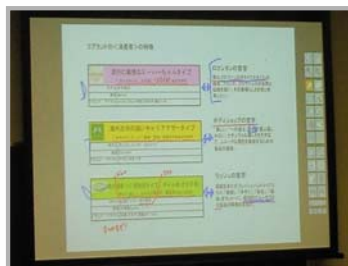
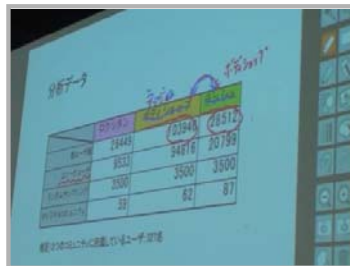
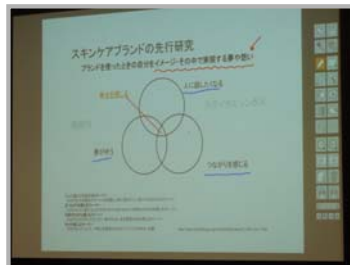
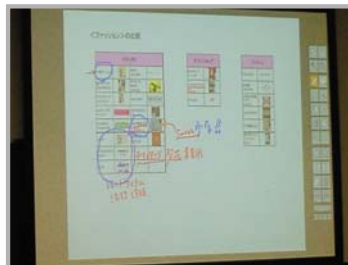
使い方は簡単なので、デジタルペンにはすぐ慣れました。またボールペン（紙にインクが残る）であることが便利ですね。スクリーンを見ながら書かなくてもいいので、指導するコメントの内容そのものに集中できます。

コメント指導したいページにデジタルペンでタップするだけで、リアルタイムに画面が遷移するので、ゼミの流れを妨げることなくスムーズに進行することができます。

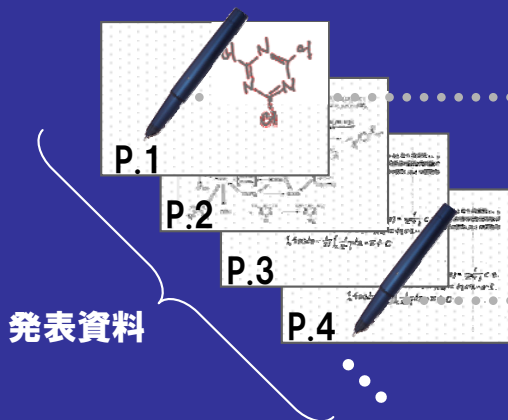


(上)デジタルペンでタップするだけで、リアルタイムにパソコン画面が遷移
(右上)書いた跡(ボールペンのインク)がちやんと残ります。

■記入コメント例



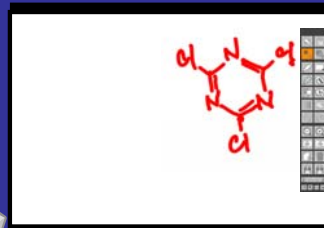
OpenSTAGE ここがポイント☆



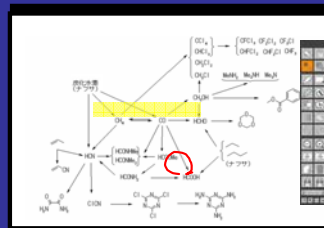
手元資料の各ページに
ペンでふれるだけで、
画面表示を切換



P.1のOpenSTAGE画面



P.4のOpenSTAGE画面



手元の紙(該当ページ)にデジタルペンでタップするだけで、コメントしたい画面に瞬時に表示切替ができるため、議論の流れを妨げず、スムーズな進行が可能です。ボールペン(紙にインクが残る)の為、画面を見ながら書く必要がなく、指導に集中できます。

●OpenSTAGEは、大日本印刷株式会社の商標です。

●その他すべての社名、ブランド名、製品名は各社の商標または登録商標です。

問い合わせ先

開発元

大日本印刷株式会社

〒115-8001 東京都北区神谷3-8-1

電話: 03-5939-2777

URL: <http://www.dnp.co.jp/bf/digitalpen/main/openstage.html>